

平成31(令和元)年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (R2.3月12日実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>○生徒の多様性(ダイバーシティ)を尊重し、個性や能力を伸ばす教育課程を編成する。</p> <p>○生徒一人ひとりの学習や進路等の目標を実現させる。</p> <p>○生徒の主體的な学習を充実させ、学力を育成する。</p> <p>○授業改善の取り組みを充実させる。</p> <p>○高大の接続を意識した高大連携を模索し、新テストに対応する。</p>	<p>①自学自習を重視した学習指導について検証し、より効果的な内容に向けた方策を検討する。</p> <p>②組織的な授業改善の推進と授業研究の発展を図る。</p> <p>③大学入試新制度に向けた校内のシステム等についての検討を推進する。</p>	<p>①「朝学習」、「スタディジョギング」(定期試験前の放課後学習)等についての課題を検証し、改善のための工夫を行う。</p> <p>①夏期講習や補習について、生徒にとって魅力あるテーマの検討や募集時期の検証を行い、自学自習の習慣づけをすすめる。</p> <p>②教科間の連携を深めながら、学校全体で授業改善に取り組み、研究授業等の機会を充実させる。</p> <p>③現行の教育課程において大学入試新制度に対応した内容を効果的に導入する方法等について検討する。</p>	<p>①「朝学習」、「スタディジョギング」等の実施をとおして、自学自習の定着や学力向上に一定の効果がみられたか。</p> <p>①夏期講習や補習の参加者が前年度より増加したか。</p> <p>②教科を越えた研修・研究により、「更に工夫され、洗練された」授業実践が前年度より増えたか。</p> <p>③大学入試新制度について、職員間の情報共有や生徒保護者への周知が十分にできたか。</p>	<p>①2年生を対象に「朝学習」、「スタディジョギング」を実施した。学力向上の顕著な効果は見られないが、自学自習の習慣づけに一定の効果は見られた。</p> <p>①参加人数は前年とほぼ同数であったが、校外開催の高大連携講座(今年度新企画)への参加があり質的向上がみられた。</p> <p>②初任者や中堅教員の研究授業の取組みや教員間の相互の授業参観等も増え、工夫され、洗練された授業実践が前年度より確実に増加した。また、昨年度に引き続き10月に授業改善研修を実施した。</p> <p>③保護者向け進路説明会等開催し、大学入試新制度について保護者、職員への周知を図った。</p>	<p>①継続して実施することで、自学自習の習慣づけを確かなものにしていく。加えて、1学年に対し「朝学習」、「スタディジョギング」の実施を促す。</p> <p>①夏期講習の募集時期をもっと早める必要がある。また、生徒の参加を促す内容の検討を進める必要がある。</p> <p>②教員間相互の授業参観をさらに促進させる必要がある。また、他校の研究授業への積極的な参加を促す工夫を検討する必要がある。</p> <p>③大学入試新制度について保護者、教職員への更なる情報発信や啓発を続ける必要がある。</p>	<p>①自学自習の習慣づけに「朝学習」や「スタディジョギング」の実施は一定の効果が見られたが、学年ごとの取組みに温度差があった。学校として足並みを揃えて実施されたい。</p> <p>②教員の授業力向上のための授業研究等の取組みにより、洗練された授業実践が前年より確実に増加している点は大いに評価できる。今後もこの取組みは継承し、更なる授業力の向上を期待する。</p> <p>③生徒の多様化、授業形態の変革、大学入試制度の改変等、今後も保護者や生徒にさらに丁寧な説明や対応が必要である。</p>	<p>①「朝学習」、「スタディジョギング」の取組みは自学自習の習慣づけに一定の効果があることが分かったが、学年ごとの取組みに差が出たことが課題である。次年度に向けて学校全体で取組む体制づくりを検討すべきだ。</p> <p>②教員の授業改善に係る意識は格段に向上してきた。教科を越えた授業参観も自主的に行われるようになった。しかし、ICTを活用した授業等の取組みはまだまだ進んでいない。授業改善や授業力向上の取組みは今後も継続して推進していく必要がある。</p> <p>③大学入試新制度については、校内で実施した研修会や説明会等で職員や生徒保護者への周知を図ったが、今後も急な情勢の変化に備えて、継続的に説明会等を実施していく必要がある。</p>	<p>①「朝学習」、「スタディジョギング」を学年の自主的な取組みとしてではなく、学校全体での取組みとするために、学務グループや進路グループが主体となって取組む体制作りを早急に検討し、改善していきたい。</p> <p>②校内の授業参観、授業研究は今後もさらに活発に実施していく必要がある。また、他校での公開授業等への職員の参加を促進していくことも必要である。個々の教員が出席した教科研究会や各種の研修会で得た情報を多くの教員が共有する仕組み作りも必要である。さらに、BYOD環境を活用した授業を推進するために、教員向けの情報機器活用の研修会を複数回実施していく必要がある。</p> <p>③社会情勢の変化に伴い、学校教育の方向性や大学入試制度も改変されることがあるので、常に最新の情報を収集し、生徒や保護者に的確に提供していく必要がある。</p>
2 生徒指導 支援	<p>○組織的な相談体制を整備する。</p> <p>○生徒一人ひとりの個を捉えた支援体制を確立する。</p> <p>○グローバル社会を生きる能力の獲得と自立する力を育成する。</p>	<p>①学校全体としての教育相談体制が機能するようにする。</p> <p>②生徒一人ひとりに対する生徒支援の実現を目指す。</p> <p>③「自主自立」を実現できる生徒の育成を行う。</p>	<p>①各学年の生徒情報の共有とともに、教育相談コーディネーターが中心となって、学校全体として教育相談を機能させていく。</p> <p>②SCやSSWを積極的に活用し、生徒の抱える多様な問題に対応して支援していく。</p> <p>③集会、面談などの機会に定期的に生活指導を行い、家庭との協力のもと、生徒の自立を促す。</p> <p>③生徒会活動や部活動指導をとおして、個々の生徒の自主自立の精神を育成する。</p>	<p>①生徒個人、学級担任だけが問題を抱え込むことなく対処できたかどうか。</p> <p>②精神面だけでなく、学校生活、家庭での問題なども支援し、不登校の状態の生徒をなくすことができたか。</p> <p>③基本的な生活習慣に乱れはなかったか。</p> <p>反社会的行動に対する指導件数が減少したか。</p> <p>③生徒会活動や部活動指導をとおして自主的・主体的に活動する生徒が増えたか。</p>	<p>①学年全体で情報を共有し、必要に応じてSCや外部機関につなげることができた。</p> <p>②登校できない生徒は現在も複数名おり、転学した生徒もいた。</p> <p>③年度当初に生徒指導規定を改訂し、SNS関連やいじめなどにも対応するきめ細かい指導を心がけた。</p>	<p>①学年会等で情報は共有するが、その先の指導は担任任せになっている。</p> <p>②家庭との関係を密にするとともに、学校での環境整備に努める。</p> <p>③喫煙、暴力行為など明らかな問題行動はないが、悪気なくうっかり軽率な行為をするケースが少なくない。</p>	<p>①学校全体での情報共有は重要であり、その結果として外部との連携もできていたところは評価できる。</p> <p>②当初目標としていた生徒の不登校をなくすことは残念だ。生徒一人ひとりの居場所や活躍の場があるような仕組み作りを模索してほしい。</p>	<p>①生徒支援・生徒指導案件に係る学年や学校全体での情報共有はできたが、その後の指導は担任任せの部分があった。指導体制を再考すべき。</p> <p>②生徒の不登校に対する指導では成果が出せなかった。次年度も引き続き、取組みたい。</p> <p>③生徒会活動や部活動指導をとおして、自主的・主体的に活動する生徒を増やすことはできた。卒業式を生徒が主体的に運営した。</p>	<p>①生徒支援・生徒指導案件については当該学年はもちろんのこと、学校全体で情報共有し全校を上げた指導体制を構築すべきである。</p> <p>②関係機関との連携や面談・家庭訪問を促進するなど、生徒の不登校に対する支援・指導を充実させ、不登校を減らす取組みを推進していく。</p> <p>③今後も生徒会活動や部活動の活性化を図っていく。</p>

3	進路指導・支援	<p>○生徒が主体的に進路を選択できるような支援体制を確立する。</p> <p>○シチズンシップ教育の取組みを充実させ、生徒が積極的に社会参加するための能力を育む。</p>	<p>○自身を見つめ直し、将来のあり方を深く考えさせるとともに、進路意識を向上させ、高い目標の設定とその進路実現に向けた支援を行う。</p>	<p>①進路希望調査及び、計画的な面接指導を通して、適切かつ早期に進路目標を定めることができるよう支援を充実させる。</p> <p>②各種進路ガイダンスの実施により、生徒が主体的に進路を選択し決定できる力を育て、個々の志望にあった進路実現を図る。</p> <p>③各学年でシチズンシップ教育を実施し、自主的に社会参加しようとする意欲を育てる。</p>	<p>①進路希望調査を適切に実施できたか。面接指導を計画的に、効果的に実施できたか。</p> <p>②進路実現に関する意識向上および、成果を上げるために、進路ガイダンスの時期や内容が適切であったか。</p> <p>③地域ボランティア等について、生徒の自主的・主体的な取組みがなされていたか。</p>	<p>①各学年とも進路希望調査の結果及び、2回のスタディーサポートの結果を踏まえ適切に面談指導に生かしている。</p> <p>②2年生の分野別進路ガイダンスをはじめ公務員希望者、看護医療系希望者等さまざまな進路希望に合わせたガイダンスを実施し個々の進路意識の向上を図っている。</p> <p>③2, 3年生には、模擬投票を実施することにより、選挙に関心を持つとともに、社会参加する意義を自覚させることができた。</p> <p>③10月31日に1年生による逗子海岸清掃活動の実施。</p> <p>③11月11日に逗子市長による3年生向けのシチズンシップ講演を実施した。</p>	<p>①生徒の進路希望の変化を捉え、適切に生徒、保護者それぞれへの進路ガイダンスの実施や模擬試験、英語4技能の向上を目指した施策の充実など検討していく必要がある。</p> <p>②進路実現に向けて、各種ガイダンスの充実だけでなく、学習活動の充実に向けた取組みが不可欠である。</p> <p>③ボランティア活動をはじめ、生徒の自主的・主体的活動を促すための施策ができたか検討する必要がある。</p>	<p>①進路に対しての目標と危機感をもつと自覚させる指導を求めたい。</p> <p>②進路ガイダンスの実施は、生徒の向上心を育成する意味で高く評価する。</p> <p>③シチズンシップ教育に生徒が主体的に取り組み、目的意識を向上させるためには、取組みに対する評価の仕組み作りが必要であると思われる。</p> <p>①②③生徒や保護者に対する進路指導や説明会、学力向上の方策などきめ細かい学校側の取組みは評価できが、それに対する生徒の取組みや本気度が低いようなので、今後の改善が必要である。</p> <p>③様々な形で地域の人々と接する中で、生徒一人ひとりが自分の進む道を探すヒントが得られるとよい。</p>	<p>①進路希望調査や面接指導を計画的、効果的に実施することはできたが、生徒の目的意識の向上までには及ばなかった。次年度の課題としたい。</p> <p>②学年ごとに実施している各種の進路ガイダンスにより生徒の進路実現に関する意識向上を図ることは達成できた。</p> <p>③各学年で実施したシチズンシップ教育を通して、生徒が自主的に社会参加しようとする意欲を育てることはできた。しかし、生徒がさらに主体的に目的意識をもって取組むためには、評価システムの再考も必要である。</p> <p>①②③学校側の進路指導に対する各種の取組みに対して、それに対する生徒の取組みの本気度が不足している。</p>	<p>①個々の生徒に対して、進路目標の設定とそれに向けた方策（取組み方）について、各自が自分事として捉え、主体的に行動するような仕掛けづくりを検討していきたい。</p> <p>②生徒が主体的に進路を選択し決定できる力を育てることを目的として実施した学年ごとの各種進路ガイダンスは効果的であったが、スタディーサポートの活用などの学習活動の充実に向けた取組みには改善の余地がある。</p> <p>③生徒がシチズンシップ教育に主体的に目的意識をもって取組むために、生徒の取組みに対する評価システムを構築していきたい。</p> <p>①②③生徒の進路実現や社会性の育成のための取組みに生徒が本気で取組む仕組み作りを模索したい。</p>
4	地域等との協働	<p>○コミュニティ・スクールを活用し、地域との協働を図り、生徒の生きる力を育む。</p> <p>○地域貢献活動やボランティア活動に取り組む意欲や行動力を育成する。</p>	<p>①地域の教育力を活用し、さまざまな分野の事象を専門的に学ぶ。</p> <p>②地域と連携し、地域貢献活動やボランティア活動に取り組む意欲や行動力を育成する。</p>	<p>①「総合的な学習（探究）の時間」における表現・創作活動や講話を聴く機会を設け、十分な事前指導のもと幅広い教育活動を実践する。</p> <p>②委員会や部活動による社会参加活動の活性化に加え、より多くの生徒が参加できる活動を計画・実践する。</p>	<p>①地域の人材の活用により、幅広い教育活動が実践できたか。</p> <p>②委員会や部活動による社会参加活動が活性化したか。そして、より多くの生徒が参加し活動したか。</p>	<p>①海岸清掃、地域インタビューなどのイベントを1・2年とも4月当初より準備を進め、余裕をもって計画的に進めた。</p> <p>②野球部員による地域清掃活動、福祉員会による募金活動など定着している。</p>	<p>①総合的な学習（探究）の時間に実施しているが、担当者に頼りすぎ、負担が大きい。</p> <p>②学校全体の取組みにするには、さらなる努力が必要である。</p>	<p>①幅広く社会人の考えを聴く機会を作り、実践できていることは評価できる。地域との協働・連携は生徒が学校という枠組みの中だけでなく、社会の一員という意識を深めるうえで重要な役割を果たしている。</p>	<p>①地域の人材の活用により、幅広い教育活動が実践できたが、個々の担当者の負担は大きかった。</p> <p>②委員会や部活動による社会参加活動は活性化したか。また、より多くの生徒が参加し活動した。</p>	<p>①地域との協働・連携の有用性は十分証明できたが、携わる職員の負担感は大きい。今後に向けて負担軽減の方策を模索したい。</p> <p>②海岸清掃や福祉活動等での生徒の社会参加活動は活発に行われたが、生徒から主体的に取組もうという活動は少なかった。生徒の主体性を引き出す方策を検討すべきだ。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>○PDCAサイクルに従い、グループ、学年、教科が教育活動を常に見直し改善する。</p> <p>○コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の役割を明確化し、機能的に活用する。</p> <p>○学びを支え、安全で安心な教育環境の整備に努めるとともに事故・不祥事防止の徹底を図る。</p>	<p>①全職員でコミュニティ・スクールの機能を周知・共有し、活用の推進を図ることにより、教育活動を活性化させる。</p> <p>②全ての生徒に安全安心な教育環境を整える。</p> <p>③職員の事故や不祥事防止の徹底を図る。</p>	<p>①本校が取り組んでいるコミュニティ・スクールについて機会があるごとに職員会議等で全職員に周知し、機能や意義について啓発する。</p> <p>①本校がコミュニティ・スクールで連携している組織やグループ、個人との連絡をより密にし、効率的な運用を図る。</p> <p>②心身に障害や不安を持つ生徒にも安全安心な環境整備に努める。</p> <p>③定期的な事故防止会議を開催し、継続的に意識啓発を図る。</p>	<p>①コミュニティ・スクールの役割や機能を全職員が理解・共有できたか。また、連携組織や機関等との連絡調整がスムーズにでき、教育活動を活性化させることができたか。</p> <p>②全ての生徒に安全安心な教育環境を整えることができたか。</p> <p>③職員の事故防止に対する効果的な意識啓発ができたか。</p>	<p>①コミュニティ・スクールの役割、機能についての全職員の理解・共有はまだ途上である。連携組織等との連絡調整はスムーズにできた。</p> <p>②教育環境に係る整備も実施途上である。</p> <p>③定期的な事故防止会議や校長による緊急の事故防止会議を実施し、継続的な意識啓発に努めた。</p>	<p>①関連グループの職員以外は、コミスクに関する意識は低い。更なる意識啓発が必要。</p> <p>②予算面で実施不可能な部分もあるが、財務課等の関連部署との折衝を継続する。</p> <p>③本校職員の事故防止意識はかなり向上したが、全県では不祥事が続発している。</p>	<p>①コミュニティ・スクールに関わる教員が毎年入れ替わっても、その年度ごとの新しい体制で新鮮な意見を出し合っており効果的な運営を目指すことが大切だ。</p> <p>②予算面で困難なところもあるが、生徒の安全安心を第一に教育環境を整え、環境整備に努めてほしい。</p>	<p>①コミュニティ・スクールの役割や機能を全職員が共有できたとは言えない。しかし、学校経営や総合学習においては、連絡調整がスムーズにでき、効果的に活用することができた。</p> <p>②予算面で許す限りにおいて生徒の安心安全のための環境整備に努めた。</p> <p>③定期的な事故防止会議を開催し、全職員に対して継続的に意識啓発を図った。</p>	<p>①自分が当該者にならないと一般の職員はコミュニティ・スクールの役割や機能を把握しようとはしない。より多くの職員がコミュニティ・スクールに関わるような仕組み作りが必要である。また、各分科会の活動を活性化させる方策も必要である。</p> <p>②予算面での折衝を今後も継続していく。</p> <p>③事故防止会議がマンネリ化しないように配慮する必要がある。</p>